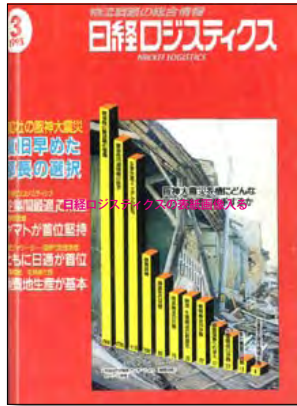


COMMUNICATION ENGINEERS,INC.

メンバー紹介

なぜこの仕事を選んだのか、
仕事をする上で大切にしていること、
個人的に興味のあること、得意としていること…。
CEのメンバーがそれぞれの想いを綴りました。
ぜひ、ご覧ください。

WORKS



日経ロジスティクス
 入社して初めて携ったルーティーンの仕事。今のようなデジタルでの仕事ではなくすべてがアナログの時代でした。写植や版下、色指定。イメージ通りに仕上がるか印刷されるまで確認できないなど、今では想像もできません。写真のトリミングひとつとっても、今のように簡単に微調整したりサクサクするわけにはいかないのです。その分緊張感をもって仕事していたような気がします。
 編集部のお近く近くに席を置き、一緒に作り上げていくことは、今では得難い充実感と楽しさでした。

日経ヘルスケア / 日経ヘルスケア 21
 アナログからエディオンというデジタル化、そして Mac での誌面作りへ移行という、エディリアルデザインの大きな変換期を味わった仕事でもありました。誌面がデジタル化していく中、表紙では撮影のための素材集めをしたり、タウィンの図をもとに模型を自作したり、いろいろな素材をどう料理するかを毎月考えるのが大変でもあり、楽しくもありました。今のデジタルデータのように撮影後の修正が容易ではなかったため目指すものに到達させるため、あらゆる手段を用いて試行錯誤するカメラマンの姿に、経験と柔軟な思考の両方が大切なことを教えられました。



日経ヘルスケア21
 介護・看護の現場でモバイルを活用
 1ヶ月間導入し業務を効率化
 急増するグループホームの「多種多様」
 一歩進んだ患者クレームの収集法
 最新 集約に動く広告・PR戦略



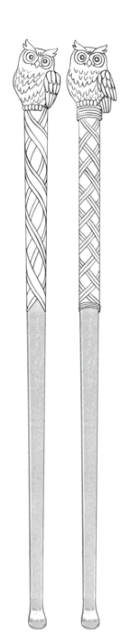
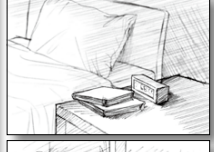
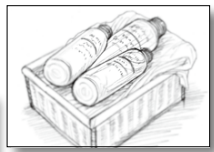
日生協 / 暮らしと生協 快適物語
 商品を見て説明を聞き、商品を理解。その商品のウリをいかに消費者に伝えられるか。決まり事や制約が多い中で入れるべき情報をどう整理し構成するかに、毎回頭を悩まされる仕事でしたが、それゆえ完成した時の嬉しさは格別でした。スタジオに何チームものカメラマンとスタイリストが入り乱れ、計画的にセットを組み立てては撮影、解体、また組み立てて撮影…とめまぐるしく進む撮影現場。撮影前に綿密な打ち合わせが行われることが事故回避に繋がることが実感しました。スケジュールと情報管理がしっかりなされ、それぞれがプロフェッショナルに仕事を進めるさまを目の当たりに経験できたことは、今でも僕の仕事に対する姿勢に結びついていると思います。

PERSONAL

【手を動かす仕事をしたい】
 細かい仕事がいっただけでできるか分からないですが、可能な限り、手を動かす仕事をしたいです。

子供のころから絵を描くことが大好きだった自分が、なぜイラストレーターや漫画家を目指さなかったのかは思い出せませんが、好きなことを仕事にはしたくないという意識があったようにも思いつつ、そこからまるっきり離れたわけではないデザイナーという仕事を選んでいることが不思議です。やはり、何かを作ることが好きなんだろうな。

【アナログイラストを描くことが楽しい】
 仕事をはずれた部分では、今はイラストを描くことが楽しいです。デジタル彩色も奥が深く面白いですが、コピックや水彩色鉛筆などのアナログを用いると不便さの中に予想しなかった結果が味わえて面白いです。一日中デジタルに接している反動でしょうか？ 次は何を描こうかと、鉛筆でとりとめもなく落書きする時間が好きです。



無印良品もろもろ
 仕事として携わる前から無印が大好きで、青山店や銀座店などよく通っていました。無印の、鮮度を保ちつつ昔と変わらないデザインに対する姿勢を損なわないよう、気をつけています。カタログや Web、POP やチラシなど様々な媒体に携わらせていただきましたが、形には残っていない撮影ラフ描きも楽しかったです。
 今まで、一体何枚の撮ラフを描いたのか見当もつきませんが、まさに「継続は力なり」。学生時代にやったクッキーやデッサンながら、絵を描くトレーニングにもなりました。もちろん好きなものだけを描くわけにはいかないこともあって、苦労も多かったですが……。

無印良品の撮ラフ描きから繋がり、伝統工芸師の方と仕事できる機会にめぐまれました。資料を集め、イメージを固めながらラフをおこしていく作業はとても楽しいです。平面的なレリフから立体的な根付けまで原画を描かせていただきましたが、すべてが商品化に結びついたとはいえないのが残念。
 商品開発にむすびつく提案ができれば、現時点で止まっている仕事も動き出すのではないかと考えています。

【必要な部分に時間を充てたい】
 今までで印象に残っている仕事を振り返ると、特に長く携わっていたものがほとんどでした。短いスパンで進んでいく仕事が悪いわけではありませんし、当時は初めてのことが多く刺激的な時期ということもあったのだらうと思いますが……。

仕事にあたる時は丁寧に、責任をもって向かい、その時点では必要のない細部にこだわって無駄な時間をかけることなく本当に必要な部分に時間を充てられるよう心がけています。

WORKS



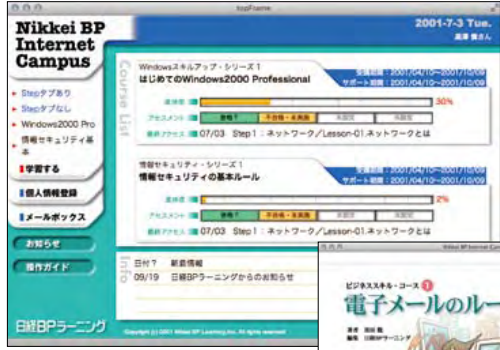
『日経 MAC』1993 ~ 1997
1993 年当時、日本における DTP (Desk Top Publishing) は黎明期と呼べるような時代。そんな中「創造的ビジネスのためのマッキントッシュ活用誌」を旗印に創刊された「日経 MAC」という月刊紙の創刊からお手伝いさせていただきました。



『日経 NETWORK』2000 ~ 2010
日本でもインターネットがブレイクした 2000 年に創刊された「日経 NETWORK」では、ロゴの作成、表紙の絵作りから図版の細部まですべての行程に深く関わらせていただきました。
編集作業を通してネットワークやサーバーについての多くの情報や知識を得ることができ「今」につながるスキルを身につけてもらえた仕事でした。



バーチャル博物館『江戸という時代』1998
Netscape Navigator の衝撃的なデビューとともに初めて触れた HTML という技術。HTML をベースにした最初の仕事がこの CD-ROM コンテンツでした。膨大な量のテキストと画像、を管理するためにデータベースを導入し、情報整理から最終的な HTML ファイル作成までをシステム化。今のコンテンツ制作スタイルの原点ともなった作品です。



e ラーニング『i-campus』2001 ~ 2005
通学型スクール事業と Web ベースドトレーニング (WBT) の 2 本柱で IT 関連分野の学習事業を展開する、「株式会社日経 BP ラーニング」設立にともない、WBT 部門のシステム側のグラフィックデザインと受講用のコンテンツ制作に参加させていただきました。



無印良品 Web ページ 2009 ~
無印良品の Web ページ制作においては主に HTML、CSS などのコーディングで参加しています。プロジェクトのスタート時にページレイアウト段階で DTP ソフトを利用することに決め、そのフォーマット作り、ルール決めから始めました。
確定したレイアウトデータから画像とテキスト情報をファイルとして書き出し PHP でダイナミックに HTML を生成するしくみです。翌年、画像以外の情報をデータベースへ移行し、Web ブラウザーで直接編集することが可能になり、独自の CMS (content management system) と呼べるくらいになっています。



PERSONAL

【すべては時の縁と人の縁】
子供のときから手を動かしてモノを作ることが好きだったし得意でした。プラモデルはもちろん、隣にあった大工小屋から建材の切れ端をもらってきて船や自動車を作ったりしていました。河原で拾った自転車をリストアして乗り回したりしていました。何となくインダストリアルデザインを指向するようになっていたんですが縁あってグラフィックデザイナーとして働き始めて 2 年目、なぜか会社にぼつんと置かれていた富士通の FM-8 というパソコンとの出逢いのがその後の方向を決定したのだと思います。コンピュータ=計算機ぐらいの認識しかなかったので、「モニター上に丸が描ける」その初体験は衝撃的でした。それから 1 週間ぐらい会社に泊まり込んで Basic 言語をマスター。アセンブリ言語、C 言語を経ていまは javascript などのスクリプト言語と格闘する日々を過ごしています。

【知りたいことは尽きない】
WWW ブラウザである Mosaic の出逢いもまた驚きでした。世界中で公開されている情報を席にいながら閲覧できる、HTML とかいう形式さえ理解すれば自分から発信することもできる。Mac や Windows といった垣根をこえて簡単に情報を共有できるなんて夢のよう。(一部、夢でしたが...)
広がり続けるインターネットを利用したサービスは可能性を広げてくれる一方で、より高度そして複雑になってきています。日々生まれる新しい技術、多様化するメディアを十分に活用できるように、知恵の元となる知識を身につけるべく常に新しい「何か」にトライしていきたいと思っています。

【仕事はほとんど趣味!?】
プログラミングは何時間やっても飽きませんね。コンピュータとの初めて出逢ったときもプログラミングからでしたしやっぱりコンピュータを自由にコントロールする快感は忘れられません。その延長で二足歩行の自律ロボットを作ってみようかと思ったことがあります。当然コンピュータが乗っていてそれに手と足がついている 30cm ほどのオモチャ、アルミ版を加工してスクラッチしようと思面まで書いたのですが、軍資金の目処が立たずに断念。きつとうまくコントロールできたら楽しかったでしょう。

WORKS



『イノヴェ』第一三共製薬広報誌

製薬会社による広報誌。イメージ写真や手書きのイラストを多用した誌面は、医療向けの広報誌としては異色の存在だったのではないだろうか。医療従事者の方から「一般の人々に噛み砕いた説明をすることもあるのだ」と、イラストをお褒めをいただいたことがあり、デザインとはかけ離れた業種であっても協力できることがあるんだと気づかされました。表紙イラストは谷口弘樹さんに担当していただき、非常に光栄でした。



『MUJI LIFE』良品計画

無印良品は私達の生活にとても近いところに存在しています。それゆえに、無印良品のデザインにかかわる人間は社内・社外を問わずその商品と理念を良く理解し、トーンアンドマナーを守り、メッセージを伝えていくことが重要だと思っています。



『マーサ・スチュワート日本版』

ライフスタイル・コーディネーターのカリスマとして知られるマーサ・スチュワート氏のアイデアがぎっしり詰まったリング雑誌。余計な装飾エレメントは一切排除し、写真のクオリティとタイポグラフィだけで構成する誌面でした。翻訳版ではあるもの、ご本人のチェックが入るため緊張する仕事でしたが、海外の雑誌づくりの手法を学べましたし、実際にNYのオフィス訪問をしたりと、結果として爽りの多い仕事となりました。



『清水ヨウコの天然石ビーズで煌めくジュエルデザイン』世界文化社

この仕事をはじめの前から清水さんの作品には興味をもっていたのと、天然石については趣味を通して知識もありましたので、お実際に話をいただいたときにはとてもワクワクしたのを覚えています。作家さん、編集者、デザイナーそれぞれが、お互いを信頼しあえたことが、ブックデザインに良い効果を生んだと思っています。

PERSONAL

【小さな頃から得意だったことが仕事になりました】

私、小学校の頃はブラックジャックみたいな天才外科医か、動物と暮らす農場の経営者になりたかったんです。しかし成績はふるわず、それからもずっと美術で穴埋めをするような子でした。だから美大を受験した理由は「自分の中では1番得意だったから」。制作会社を選んだのも「飽きずに続けられそうだったから」です。親類にもデザイナーやイラストレーターがいたせいか、両親もとやかくいわずにしてくれたのも助かりました。いまでは一番自分に合った仕事につけてラッキーだったと思っています。

【年齢に見合った厚みのあるデザインを目指したい】

一般的にデザイナーは年齢がかさんでいくと、斬新な発想が途切れがちになるのではないかと危惧されますよね。ただ、年齢を重ねないと出来ない仕事もあると思うんです。狭義にはブックデザインの細かいフォーマットづくりだったりするかもしれませんが、大きな意味ではベーシックデザインの大切さを見直したり、あるいは自分の国独自の伝統やマナーを踏襲したデザインをすることなどですかね。これからトライするとしたら「フォーマルな仕事」がきちんとこなせるデザイナーになりたい、と思ったりする今日この頃です。

【熱しやすく冷めやすい、現実的な空想家です】

趣味としてはクラフトや手芸などの手作り関係が好きです。仕上がりが仕組を考えるのが楽しいから。色とりどりの毛糸や刺繍糸など、素材をながめながら「何が出来るかな?」と想像するのは至福のひとつです。が、もしかしてそれ以上に道具を使うのが好きなのかもしれません。性能の優れた道具を使うと、気分が高揚します。お菓子づくりでは、お菓子が熱で化学反応をおこして膨らむところが理科の実験に似ていて好きです。だいたいの手法や攻略法がわかると飽きてしまう性格なので、数々の趣味を経て来ましたが、英語は未だ攻略できてないので、これからも続いていくと思います。

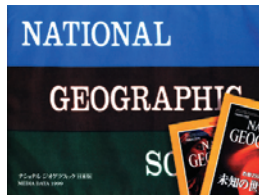
WORKS



『無印良品 食品レシピブックカタログ』 良品計画
 初の無印良品の仕事。スタイリストさんなどスタッフ構成から制作まで最初から最後まで任された仕事でした。ライフスタイルにまつわる仕事に興味があったので、暮らしに近い無印良品の仕事にはとても興味がありました。仕事の進め方など現場では本当にいろいろな方に教えていただき、緊張しながらもやりがいを感じた仕事でした。「仕事は現場の積み重ねで体得する」ということを実感しました。



『MUJILIFE コンセプトページ』 良品計画
 無印良品のものづくり、販売の仕方のこだわりを簡潔な写真と文章で紹介するページ。いろいろな意味で、無印らしく仕上げるのができたかと思っています。それは「無印良品」のコンセプトがしっかりしていてわかりやすいことと、カメラマンを含め制作にあたる人たちが共通の価値観を持って制作にあられたことが良い結果を生んだと思います。



『ナショナル ジオグラフィック 日本版 創刊発表会』
 日経ナショナル ジオグラフィック
 私にとって入社すぐにあった「ナショナルジオグラフィック」の日本版創刊に関するプロジェクトは、何もかもが初めてのこともありワクワクしました。会場の下見から装飾のフラッグ、お土産を入れる紙袋など多岐にわたる仕事内容を体験でき、この仕事の魅力にとりつかれました。



『マーサ・スチュワート 日本版』
 高校生のころから憧れていたマーサ・スチュワートが作り出す世界観。暮らしを楽しく、美しくするアイデアが詰まった雑誌「Living」の日本版の制作にかかわることができたことは、とてもうれしく光栄なことでした。実際本国の編集や写真のクオリティの高さにふれることができ、また、いろんな役割（仕事）の人たちが関わって作る雑誌の仕組みを知ることができました。



PERSONAL

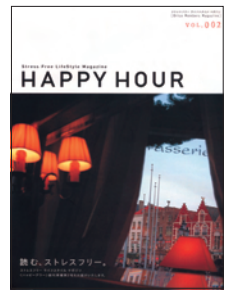
【色見本帳から色と紙に興味を持つ】
 小学校のときに図画工作の先生がくださった色見本帳の色の並びがとても美しく、こんなものがあるんだ、と感動しました。折り紙や便箋、いろいろな紙を集めるのが好きで、よくカードなどを自作しました。紙に囲まれて、紙を使って作る仕事をしたいと思うようになりました。就職の時には「モノが売れていくしくみを考えたり、それにまつわる様々なデザインを総合的に考えてみたい」という思いで活動し、制作会社であるCEにプロデューサーとしてひろってもらいました。

【プロデューサーって何？】
 「ホテルの部屋のデザインとかアメニティーなど小さなものすべてのデザインとか、集客のための広告とか、」入社したころやりたかったことを伝えたらプロデューサーという役割を与えられました。「プロデューサーとは、組み合わせの妙」と上司に教わり、色々なことがすんなり理解できました。今は「プロデューサー＝編集」すべてのことを再編集することで新しい価値観を生み出して行くことができると考えています。

【これから増やしていきたいこと】
 クライアントと深く関わっていく仕事。企画、デザイン会社としてクライアントに期待以上のアイデアとアウトプットで応えたい。もちろん成果も出し、喜んでいただくことに存在意義を感じます。仕事の種類としては、いろんな分野に及んでいるほうが勉強になりますし、初めての仕事に、いろんな人とタッグを組んで挑戦してみたいと思います。そのためにはCEスタッフそれぞれの得意とするところを活かして、伸ばせる仕事をつくりたい。また私自身はもっと人と出会い、コミュニケーションを深めていくことが必須事項だと思っています。

【仕事をするうえで大切にしていること】
 最初にいただいた感覚やインスピレーションを大切にしたい。常に思いをはせ、考え続けることで、いいアイデアやひらめきがおいてくると信じています。集中力と、あととにかく やり進めること。

【個人的に好きなこと】
 好きな器に、今日は何をのせて、何を飲もうと考える時間が幸せです。おいしいお酒を飲みながらいろいろな話をして過ごす時間が好きです。「あんなモノがあったらいいな」「こういうサービスがあったらいいな」と妄想をふくらませるのが楽しいです。



『HAPPY HOUR, MAGIC HOUR』 オリентコーポレーション
 カード会社の会員誌。雑誌のように、ストーリーを楽しめる新しいカタチの「通販カタログ」をめざした。短いスケジュールで2冊を完成させなければいけなかったこと、商品選定、交渉から企画、編集、デザインまですべてをドキドキしながらやり「皆で力をあわせてやれば何でもできる」と自信をつけさせてくれた仕事。



『日本信号 久喜信号博物館』
 日本信号
 鉄道信号と交通信号の歴史や、しくみなどを紹介する展示の編集とグラフィックを担当。初の年表づくりに苦労しましたが、一過性ではない展示物としての見せ方や、施工のノウハウなど、新しく経験することが多く勉強になりました。

WORKS



日経 BP 社『日経情報ストラテジー』
日経 BP 社による月刊経営誌。先進企業の IT 活用事例、IT に関する情報を細かな図を使用し紹介している。表紙は企業の経営トップの写真を毎号使用。10 年程担当している雑誌。表紙の撮影にも帯同して、上場企業のトップの話を開けるのがとても楽しみでもある。



日経 BP 社『日経情報ストラテジー』
日経 BP 社による中堅・中小企業の IT 戦略情報誌。

PERSONAL

【読みやすい誌面】
入社当初から、ビジネス誌を担当しているということもあるので、その雑誌がターゲットにしている、年齢に合わせた本文の文字の大きさや文字組、図版や写真のレイアウトなど、読みやすい誌面作りをするように心掛けています。

【基本フォーマット】
表紙や特集などは自分自身で最後までやり、その他の部分は基本フォーマットを作り、他の方に作業していただく仕事が多くなってきました。誰が作業をしても使いやすいスタイルシートや、指示入れて分かりやすいフォーマット作るようにしています。

【企業トップの撮影】
現在担当している雑誌は、様々な企業のトップの方たちに表紙を飾ってもらっています。撮影に立ち会った企業は 60 数社になりました。トップの方々は、時間や本社内など撮影場所にもかなり制限があります。インタビューがメインということもあり、表紙の撮影時間が 5 分や 10 分なんてことは毎度のことです。そんな時にいい場所を見つけてサッさと撮影するのは得意になってきました。



テイエス企画
『正しく話す・書くためのトータル実用英文法』
英文の組み立て方がわかる英文パターン集



NEXCO 中日本 販促物
ミウラ折り (左)、蛇腹折り (上)

WORKS



『中国的工場カイゼン記』日経BP社
こんなにオモシロイビジネス書を管て読んだことがないという、そのイメージのままつくったろうなという書籍です。また、制作尾中。帯に自作のダミーのコピーを見本に入れていたのですが、出来上がったコピーがまさに意中内容で、しかも簡潔で的確。プロの文書力に脱帽しました。



『ケイ山田の美しい庭づくり』
英国式庭園を日本に広めたハイオキアケイ山田氏の藝料高原にあるバラクライングリッシュガーデンの四季を網羅した一冊。ベテラン担当編集者のバラに対する愛情、写真や字形に対する細やかで妥協のない仕事っぷりにこちらも力の抜けないやりがいある一冊です。



『かわいワンぱくわんちゃん』ソニー生命株式会社
ソニー生命株式会社の販促用カレンダー。お客さまにあらぎと安心感とちょっぴりの笑いを感じていただけるように制作しました。



PERSONAL

【好きなことを仕事に】
デザインの中でもエディトリアルが好きです。あとやはり美しい写真や、イラストの入ったものには負けないう力が入ります。

まだ社会に出て何年にもなっていませんが、一生この仕事に携わってみたいです。



『日経オートモティブテクノロジー』日経BP社
年4回発行。とにかく内容も密度も濃い、大変な仕事でした。
デザイナーもさることながらテクニカルな雑誌なので、編集者のパワーワークがすごい雑誌でした。
その分、こちらもハイテンションでつくりました。

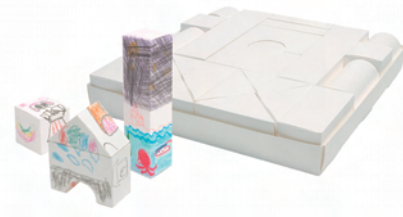


『ORIGINAL ORDER MADE BATH』三井ホーム
美しい、浴室や浴槽が映えるようなビジュアルに仕上がるように心がけました。
シンプルで、まとまり感のあるレイアウトになったと思います。

WORKS



『自由が丘がイドブック』『女神祭りJBAチラシ』『ROMANA/パンフ』
商店街振興組合が2年に1冊発行している自由が丘のガイドブック、クライアントが商店街の人たちで個性あふれる面々だったため、てこずる事も多かったですが、企画の仕方や、ゲリラ的な撮影、一般の方々のふれあいなど、楽しく制作させていただきました。また仕事の幅も広がり、美容師会からの依頼で、女神祭りJBAチラシや美容院の募集パンフも毎年制作しています。



『無印良品の広告』(例:『無印良品のスキンケア』)
無印良品は誰もが知っている、誰もが目にするものを作らせていただいているということは、すごく恵まれていることだと思います。無印良品の商品・理念を知れば知るほど、深く考えられていて、いろいろな声から作られていることが分かってきました。ものづくりに対する姿勢を学ばなければいけないなぁと思うと同時に、そのメッセージをいかに世の中に伝えられるか、とてもやりがいのある大切な仕事だと思っています。

『江戸川大学駒木キャンパス』
年に1度、新入生募集のために配られるパンフレット。学校の楽しさや先生・生徒さんのメッセージなど、見逃しのある内容になっています。楽しい学校の雰囲気や将来の夢が広がるような学校の良さを、見た人に伝えるように、自由に制作させていただきました。私も大生になりたくなるような、作っていて楽しい仕事です。

『紙の積み木』しらら
印刷会社のコラボレーションで、紙を使った商品の制作に携わりました。自分だけのオリジナル積み木が作れて子供から大人まで楽しめたらいいなという私のアイデアが形となり、商品化された時はとても嬉しかったです。これからももっとアイデアを出していけたらと思います。

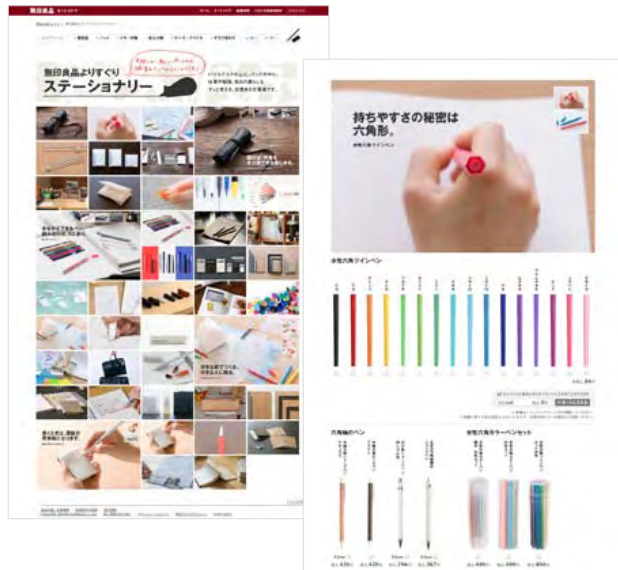
PERSONAL

【小さなころからデザインは自然とまわりにありました】
幼いころから絵を描くことが好きで、ひたすらいつまでも描き続けていたことや、学生のころはいつも美術と音楽の成績だけは良かったことを思うと、もしかしたら向いていたのかもしれませんが、父親がデザイナーの影響もあり、身近で見ていた私はあえて同じ道には進まず、違う道をその時は選びました。
しかし何年後かに印刷会社に入り、毎日デザイナーさんから送られてくるものを見ているうちに、生意気なようですが(笑)、私ならもっといいものができる、もっとこうしたいの...と思う気持ちが日増しに強くなりました。
そのころ会社で働きながら、デザイン学校に行こうと勉強をし始めましたが、年齢のこともあり、いっそダメ元でとびこんでみようとおもいました。未経験の私を雇ってくれるところを見つかるまで時間はかかりましたが、諦めず探しつつCEに出会えて本当に良かったと思います。

【発想力豊かなデザイナーを目指したい】
なんでもとにかく思いついたらやってみよう！を大切に、いろんな事に挑戦していきたいです。
いつでもいろんな引き出しをいっぱい持っているように、常にアンテナをはり情報収集をし、目で見ても耳で聴き、手でふれて五感に刺激を与える。
仕事上では、もっとフォーマットづくりを基礎から作れるようにしたり、Webも出来るようになりたいです。

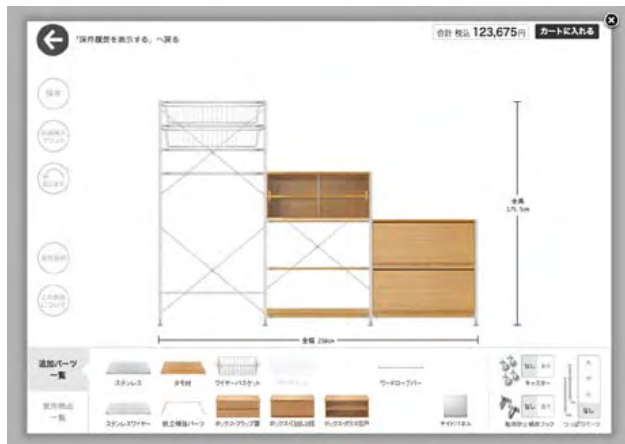
【静と動を兼ねそなえた努力家です】
趣味は陶芸、ライブ観賞です。
陶芸は無心で土と向かい合い、納得いくまで何度も作るので、出来たときの喜びが大きいです。また窯の前で火と向かい合ってる時間も辛いけど、焼き上がりのことを考えると頑張れます。唯一無心になれる、とても大切な時間です。15年ほど続けていますが、何年やっても奥が深く、飽きないのも魅力です。
あとライブ観賞はそれぞれ楽しいの一言！心機一転、ストレス解消、気持ちリセットするような感じです。
最近は読書・料理にも興味が出てきました。料理はなかなかゆっくり時間をかけて作ったりできませんが、作る過程から出来るまでの工程はものづくりに通ずるものがある気がします。

WORKS



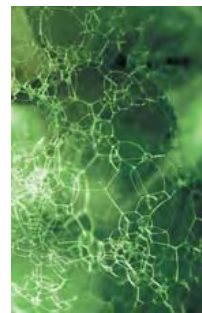
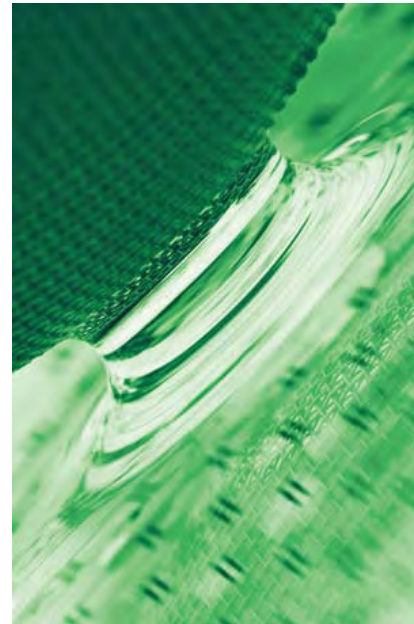
『無印良品 Web Contents』 良品計画

「ネットストアでの売り上げを上げる」この依頼は、常に購買意欲を上げるには何が必要かを考え「ときめき」と解きます。感情が動かなければワクワクしません。ステーショナリーのコンテンツは好評で「見ていて嬉しくなる」との言葉を頂き幸せでした。



『無印良品 Web Simulator』 良品計画

店舗や紙媒体では難しい動的な表現。複雑な商品をはかりやすくなるシミュレーターもその一つです。情報を楽しみながら正しく伝達するのを意識して構成します。クライアント（売り手）とユーザー（買い手）が幸せになれるお手伝いです。



PERSONAL

- 1977年生まれ。群馬県出身。
- 16才 家を出る。定時制高校に通いながら、仕事を知るため片っ端からやれる仕事に首を突っ込む。
- 20才 高校卒業。上京。再び仕事を知るため片っ端からやれる仕事に首を突っ込む。
- 21才 勉強したくなる。
- 22才 山形の美大へ。面白くて片っ端からモノを作る。
- 26才 大学卒業。CEに拾われる。

何事も自分でやってから考える。
出来ないことは口にしない。
無ければ作る。それはモノであっても環境であっても。

『日経 NETWORK』 日経 BP 社

表紙構成、撮影に携わらせていただきました。ネットワークという世界の具現化。肉眼では見えない世界なので、テーマに沿って想像し構築しました。編集部のお子さんが「他の雑誌は反応しないに、この（日経 NETWORK）表紙は興味をもって聞いてくるよ」と開けたのが幸せでした。



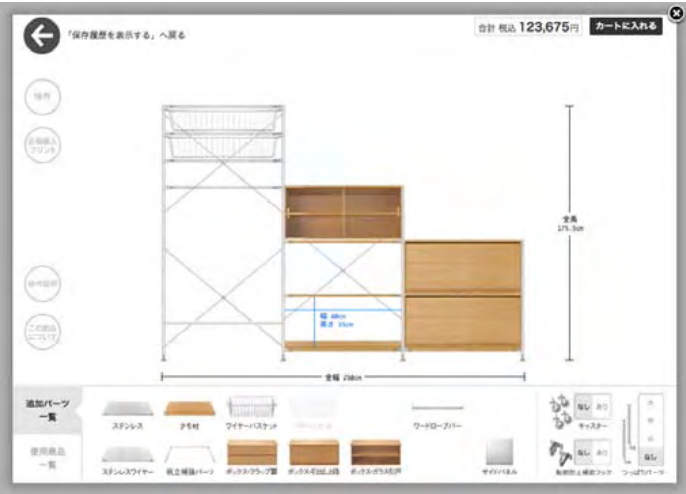
WORKS



収納家具

『無印良品 家具カタログ』良品計画

引き継いだのは入社3年後の2007年。回を重ねていくごとに、よりよいカタログにするための改良を考えながら、徐々に自分たちの得意とする編集部分や見せ方、コーディネートを盛り込んでいくことができました。この仕事を続けられているから今があると思っています。



『無印良品 SUS シミュレーター』良品計画

半年という長い期間の中で、チームワークについて改めて考え、またチームへの働きかけによって、良くも悪くも変化していく流れを目のあたりにし、チーム全体のバランスを整える難しさと大切さを実感しました。

PERSONAL

【食に関わることをやっていきたい】

まずいのちの源になる食べる事がなによりも大事。その他、歳時記、日本古来のもの、風習、手工芸などに関わること。また、自然に触れることや、野外での活動も取り組んでいきたい。やり方としては、いろんな立場やいろんな価値観を持った人が同じ価値観でゆるやかにつながれる場や、機会をつくること。同じテーマを持ち活動している人を紹介していくようなことができればいい。

【まわりの個性を生かして伸ばす】

気持ちよく仕事できる場をつくる事を考え実践していきたい。創作する上での環境や個人の思いは少なからずつくるものに影響を及ぼす。そして、可能性の種をつまみ食いせず、常にまわりのもってる力を引き出す気配りを怠らないこと。

【迷ったらスタートラインに】

純粋にこれをやろうと思った動機や考えを大事にしたい。進行していくにつれて、いろんな事情が重なっているような要素が加わったり、変化したりすることもあると思うけれど、迷った時はいつも最初に立ち返る余裕と冷静さを兼ね備えたい。そして最終的に伝えたいことはひとつに。あれやこれや含めたいことは出てくるものだけど、なるべくシンプルになるように心掛ける。精緻に勝るものなし。



『MUJI meets IDEE』良品計画

少しずつ練り上げた提案が通り、企画から、進行、制作までの一連を任せてもらいました。ロケを翌々日にひかえて準備していた時に東北大地震があり、その準備に追われながらも、この仕事ってなんだろう、社会や自分にとってどういう意味があるんだろうということを根本から考えるきっかけになりました。



人と人がつながること。仕事の中でもっともやりがいを感じることで。それぞれの個性が出会った時に化学反応で、思ってもいなかったちたになりたり、それによって人の笑顔に出会うことが次へのエネルギーを生み出してくれます。